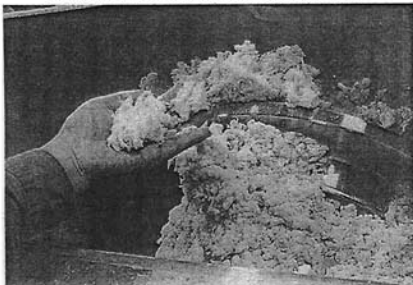


環境 地域から地球へ

使用済み紙おむつから取り出された再生パルプ



☆福岡大教授が協力 再生パルプだ。  
有明海に面した大牟田。紙おむつは、木材から  
ニタワンに、トータル 作った紙状のバルブと  
々々が6億円かけて建 排せつ物の水を吸着す  
服した紙おむつサイク 粉状の高分子吸収剤で  
止動「ラブ・ウォレス できていて、水を吸った  
大牟田」がある。  
「真白だ」とおむ 吸剤は、へつりたパ  
ルに張り付く。これを  
もいでしまふ。脱 引きはがすが困難だ  
水でたまたまなれど、なが、塩化カルシウムな  
シニのよなもの、を とを混ぜると吸収剤から  
田野肇一博士がつまん 水分が夜、簡単に取り  
ておむつに付く。使用済 除けることが松原教授ら  
み紙おむつが取り出さ

紙おむつ

使用済み紙おむつからパルプを取り出し、再び  
紙おむつの原料に使う。福岡市のサイクル工場が  
今年4月、福岡県大牟田市で稼働した。尿を吸着  
する高分子吸収剤がリサイクルのネックだったが  
が、松原肇一・福岡大教授(衛生学)らの研究  
で実用化のめどが立った。事業化したベンチャー  
企業「トータルケア・システム」本社・福岡市東  
多区には紙おむつ大牟田のエニ・チームも出資  
しており、業界や紙おむつを利する介護・医療  
現場の注目が集まっている。「西川拓、写真」

動き出したリサイクル



再生パルプで試作した紙おむつ(左)と果物用の容器

福岡に国内初の工場 尿の吸収剤 再生パルプを生産 除去に成功

工場では、使用済み紙 由来する廃棄物やシヤ  
おむつに用いたカルシウム、植物の栄養素を含んだ尿  
吸収剤と塩化カルシウム、重曹と二酸化炭素を  
サイで粉砕する。沈殿槽 荒れ地でも補給機  
で、吸収剤より軽いパル 粉やすすい」し出す。  
を浮かせ上がりさせて取 回収ルート整備が課題  
り出し、洗浄、脱水する。 紙おむつの生産量は国  
1日約10万枚約20 内では年間100億枚  
の処理能力があり、おむ 近づく。福岡産紙  
つが含むメルのパルプか ら、5年の再生パル  
を生産する。  
同時に再生する尿の低 にも使われる。一方、人  
い再生パルプや汚泥、 間に使われるのは、増  
肥料の代わりになる。松 田野肇一といる。  
原教授は「尿肥はじま 土級のものが多く、  
工場では、使用済み紙 由来する廃棄物やシヤ  
おむつに用いたカルシウム、植物の栄養素を含んだ尿  
吸収剤と塩化カルシウム、重曹と二酸化炭素を  
サイで粉砕する。沈殿槽 荒れ地でも補給機  
で、吸収剤より軽いパル 粉やすすい」し出す。  
を浮かせ上がりさせて取 回収ルート整備が課題  
り出し、洗浄、脱水する。 紙おむつの生産量は国  
1日約10万枚約20 内では年間100億枚  
の処理能力があり、おむ 近づく。福岡産紙  
つが含むメルのパルプか ら、5年の再生パル  
を生産する。  
同時に再生する尿の低 にも使われる。一方、人  
間に使われるのは、増 田野肇一といる。  
土級のものが多く、 ルト確立も進んだ。  
た」と話している。

高齢化で大人用急増

多量資源の無駄遣いへの声  
日本衛生工機工業連合 00万枚(20万2000  
会によると、紙おむつの しく大倉が約4億枚、0  
生産量は年々増え、04年 万8000万丁に達した。  
特に大牟田校数ペース  
前年比14%増で、歳 には36億0000万枚  
に増加している。 21万000丁に達  
ると見込まれる。 産品は紙おむつの一  
部はFRP(発泡樹脂)製 形 方へ「おむつはむし  
が、高齢化が進む影響で 肥をへへの利用が主  
要な無駄遣いとなを懸  
念する声が多かった。

回収の際は、使用済み  
紙おむつに異物が混入し  
ないよう、きちんと分別  
する必要がある。大人用  
紙おむつがままままらで出  
る福岡、佐賀、熊本の福  
祉福祉局や産廃処分所と  
契約し回収しているが、  
工場の稼働率は7割に割  
程度だ。協力施設を増や  
したいが、分別の手間を  
増や施設も少ない。  
紙おむつの7割を占め  
る乳幼児用は産廃での使